

令和5年度学校自己評価システムシート(県立羽生実業高等学校)

E37

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像 **確かな専門性と高い人間性を育む学校**

重点目標	1 基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着及びコミュニケーション力を育む授業の実践と生徒の主体的進路決定力を育成する進路指導を行う 2 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る生徒指導を行う 3 地域と連携・協働する開かれた学校づくりを推進し、産業人としての意識を醸成する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
年 度	目 標	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	【現状】 各教科ごとに生徒の学力に応じた授業に取り組み、学習意欲を高め基礎学力の定着を図っている。また、実践的な活動や資格取得を推進し、生徒の自信を高め進路実現に繋げている。 【課題】 実社会で必要な自主性や主体性、行動力やコミュニケーション力を身につけた生徒の育成が課題である。また、観点別評価の実施に伴う授業改善やICT機器を活用し、視覚的に学習効果の高い授業を実践しながら引き続き生徒の基礎学力の定着を図るとともに、多様な生徒の進路実現に取り組む。	生徒の基礎学力の定着と主体的・対話的な学習態度の育成	①ICT機器を活用し基礎学力の定着を図る。 ①業者テスト(基礎力診断テスト)から学習状況を把握し、PDCAサイクルを活用しながら生徒個々の学力を伸ばす。 ②年次研修や授業公開週間を活用し、教員間の授業研究・授業改善に取り組む。 ③県事業や外部講師を活用し、より実践的な授業に取り組む。 ④資格取得を推進し、学習の動機付け及び自信に繋げ、様々な資格にチャレンジさせる。	①授業アンケートによる授業満足度が向上したか。(授業満足度85%以上、教員の授業評価77%以上) ②教員アンケートによる授業改善に取り組んだか。(教員の授業改善90%以上) ③授業に意欲的・積極的に取り組む生徒の割合が向上したか。 ④埼玉県高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)や各種資格取得者が増加したか。			
		生徒の進路意識の向上と個々の適性にあった進路先の実現	①LHRを活用した面接対策と面接指導週間を設定する。 ②各学年に対応した進路ガイダンス、進路講演会を実施する。 ③個別の面談をとおして、専門性を活かした進学を奨励する。	①希望した就職先に合格することができたか。 ②生徒、保護者の進路指導に対する満足度が向上したか。(生徒80%以上、保護者88%以上) ③農業系、商業系大学等の進学者数が増加したか。			
2	【現状】 近年、基本的生活習慣が身に付き、生徒の規範意識が向上している。また、悩みを抱える生徒に専門家を活用した支援を継続している。学校行事や部活動・農業クラブ等に主体的に参加している。 【課題】 生徒は、全体的に落ち着いてきているが、生徒指導を継続し、生徒の規範意識を更に向上させる必要がある。また、心に悩みを抱え、支援を必要とする生徒は増える傾向にある。専門家を活用し生徒に寄り添う指導を継続する。さらに、学校行事や部活動等を活性化させ生徒の主体性やコミュニケーション能力の育成を図る。	生徒の規範意識の向上と教育相談体制の確立	①登校指導や整容指導、放課後の定期的な市内巡回等の実施 ①朝のPTA活動の実施 ②1年生高校生交通安全教育、自転車マナーアップ推進校等、交通安全教育に取り組む。 ③スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等、専門家による定期的な教育相談の実施と多面的支援に取り組む。	①生徒・保護者の本校生活指導の満足度が向上したか。(生徒83%以上保護者85%以上) ②生徒事故ゼロ、生徒指導件数が減少したか。 ③長期欠席者、転・退学者が減少したか。			
		生徒の主体的活動を支援する各種活動の充実	①生徒が自主的に学校行事に参加できる環境づくりとリーダーの育成に取り組む。 ②農業クラブ活動や産業教育フェアに積極的に参加する。 ③会議の精選と短縮化を図り部活動指導時間を確保する。	①生徒が主体的に学校行事や特別活動に参加することができたか。(84%以上) ②各種大会やイベントで成果があったか。 ③教員アンケートによる会議の精選・部活動の指導時間が確保できたか。			
3	【現状】 専門高校の特色を生かした地域との連携は生徒の活躍の場となっている。また、本校の教育活動をHPをはじめ地域・社会に積極的に情報発信し生徒募集に取り組んでいる。 【課題】 東部地区の中学生の減少に伴い、生徒募集は毎年苦戦している。そこで、行産学連携事業をはじめ地域の行事に積極的に参加し、本校の取り組みをHPやSNS・広報誌等、継続して情報発信していく必要がある。	地域の関係機関と協働し信頼される学校づくりの推進	①未来の職業人材育成事業を活用し、地域との協同事業やイベントに参加する。 ②行産学と連携した商品開発・市民講座を実施する。	①地域関係機関との行産学連携事業を実施することができたか。 ②商品開発・市民講座を実施することができたか。			
		募集定員の確保と高い目的意識を持った生徒の確保	①年2回の学校説明会、一日体験入学、文化祭時の中学生対象説明会の実施。 ②学校の教育活動をHP等を利用して積極的に情報発信する。	①入学志願者数が増加したか。 ②体験入学の参加者や学校説明会等への参加者数が増えたか。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		